

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	レッド スコーピオン	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.510	△RG	0.056	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：レッド スコーピオン**

フレアーの幅  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 **4 1/2** インチ

番

MB 4in

**比較対照ボール：ピンキラーII**

フレアーの幅  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

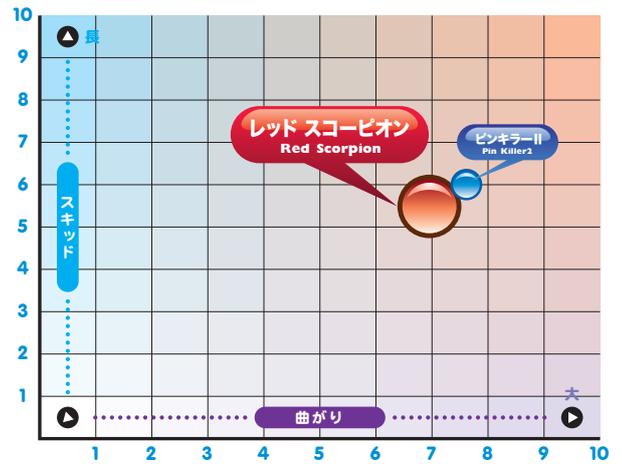
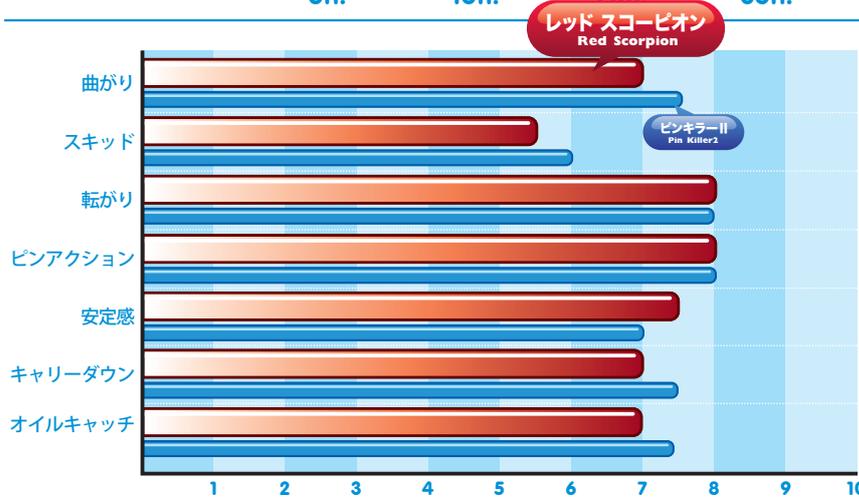
PAPからピンとの距離 **4 1/2** インチ

番

MB 4in



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

### ボールの評価

コロンビア社・トラック社と同様にこのダイノタン社もUSエボナイト工場に移してからのパフォーマンスは目を驚かすものがあり、各社独自の研究室を持ち開発を進めています。

前回発売したPIN KILLER IIは独特な走り感と切れ味を信条とし、初代PIN KILLER同様に即日完売に至りました。

今回ダイノタン社は独自のテクノロジーでのマスバイアスコアを使用したPIN KILLERとは全く違ったコンセプトでのRED SCORPIONを発売してきました。

しなやかな走りと転がりは、ミッドエリアでの安定した動きに連動し、ミディアムコンディションを中心に安定したポケットヒットを目的としていることがPIN KILLERとは違うところです。

ポケットヒットの確率を上げるのであればミッドエリアでの動き始めは非常に重要で、その動き始めの安定感が全体的な曲がりのイメージを作り、キャリアダウンやバックエンドの情報を的確に判断できます。

箱出しの表面加工は#4000アブラロンポリッシュであります。私のベストチョイスは#4000アブラロンで、箱出しの表面加工よりもスキッドエリアでの安定と同時にミッドエリアでの動き始めを強調させ、曲がり幅も大きくさせることができます。

このボールは特に表面加工を変える事により、パフォーマンスの出方が大きく変わりますので、どの領域で使いたいのかで表面加工を施すのが良いでしょう。

### 特記事項

**ダイノタン社最新作はミッドエリアでの動きが特徴的なボールです。先での動きを強調させたい場合にはポリッシュ。よりミッドエリアでの動きを強調させたいならば#2000・#4000アブラロンで加工を！**